

## ちょっとめんどくさがりな私の話

牧野 勝己

(浜松日本語学院日本語教師養成講座)

早朝 4 時 40 分、目覚まし時計のアラームを止め、耳を澄ます。雨の音は聞こえない。カーテンの隙間から外を見る。やはり雨は降っていない。仕方なくベッドから降りトイレへ向かい用を足しながらまた耳を澄ます。雨の音は聞こえない。

何をしても長続きしないタイプの人間だった。電気主任技術者の資格を取ろうと高い金を出してテキストを買ったまでは良かったがページをめくった途端、やる気がなくなってしまう。品質管理検定もそう。ほかにもそんなことはいくらかでもあったし、そもそも生きる糧であるはずの仕事すら長続きせず何度も転職した俺なのだ。それがなぜ朝のジョギングなんてものに手を出してしまったのだろうか。いったい俺は何を考えているのだ。

表へ出る。雨は降っていない。つまり走るのを休む大義名分はない。そして寒い。アップルウォッチをセットし走り出すがそれでもまだ走らなくても済む理由を探している。そんなに嫌なら走るのをやめればいいのになぜ走るのだろうか。

コースの前半は緩い下り坂。自然とペースができ、いい調子だ。それにしても風が冷たい。冬ってスペイン語でなんて言うんだっただかなあ。ああ、インビエル

ノかあ。来年はいよいよ定年だが退職金はいくらくれるのかなあ。中途入社だし大した額にはならないだろうなあ。

5キロ地点通過。さすがに少し疲れてきた。息も少し苦しい。なのに、これから長い上り坂だ。これまで下りで楽だったが、楽をすると必ず苦が待っている。若い頃の自分は楽な道ばかり選んできた。しかし今の俺はどうだ。スペイン語の勉強、日本語の勉強、そしてこの朝ランと挫折せずに継続することができている。俺は過去の自分が大嫌いだ。努力することを回避し、周囲に、そして自分に言い訳ばかりしてきた。クズ野郎め、ああ辛い、苦しい、畜生……。体を前傾させ必死に足を前に送る。やめたい、止まりたい、いやだ、俺はもうダメ人間じゃない。やると決めたことはやるんだ。江戸の敵を長崎で、じゃないが、昔の自分を今討つんだ。何年越しの恨みなんだろう。その執念深さにびっくりだ。

東の空が明るくなる。俺の夜明けも近いかも。

(875字)

(2022.6 たどくのひろば掲載)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.